



広報

たらま

平成 31 年

1 月号

平成31年1月1日発行

No.536

発行/多良間村役場・編集/総務財政課広報係 〒906-0692 宮古郡多良間村字仲筋 99-2 ☎0980-79-2011



心も身体も
大人になりました



the most beautiful
villages
in japan

多良間村は、
39番目の

「日本で最も美しい村」

連合に加盟
しています。



新年のごあいさつ

「多良間新時代」を切り拓く

多良間村長

伊良皆 光夫

Mitsuo Iramina

新年あけましておめでとうござ
います。

村民の皆様には、輝かしい新春を
健やかに迎えのことと、心からお
喜び申し上げます。また、日頃から
村政運営に温かいご理解とご協力
を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は干ばつや大きな台風の直
撃がなく、適度な雨量もあり、農業
全般に良い年でありました。基幹作
物であるさとうきび作をはじめ、特
に葉たばこ作は9農家では史上最
高の販売額となりました。畜産にお
いても、高値安定が続いております。

行政においても、課題となってい
た、新製糖工場の落成、観光拠点施
設の事業着工、水納島航路代替船の
発注などのハード事業、教育・定住
促進・観光関連事業等のソフト事
業、国による国営事業の調査事業な
ど大きな前進がありました。村民の
皆様のご協力のおかげで、村全体が

潤いに満ちた素晴らしい年でした。

さて、今日、少子高齢化・人口減
少社会が急速に進展するなど、地方
自治体は、より一層の創意と工夫を
凝らした行政運営が求められてお
ります。限られた財源のもと、住民
サービスを持続可能な形で維持し
ながら、地域の個性や特色を最大限
に生かした村づくりを、積極的に進
めなければなりません。本村は、豊
かな自然、さらには連綿と受け継が
れてきた伝統文化、魅力ある地域資
源など無限の可能性を秘めており
ます。そして、多くの村民の皆様が、
豊富な知識や経験を活かして、様々
な分野で活発に取り組みされてお
ります。こうした、地域の力を伸ばし、
村民の皆様幸せの実現、将来の多
良間村の基盤を築きあげていくこ
とが、今、私に課せられた最大の課
題であると思っております。

とりわけ、恒常的な水不足による

不安定な農業の課題解決のため、「水
あり農業」の実現は喫緊の課題であ
ります。この課題解決に向けた「国
営土地改良事業地区調査」が新年度
から実施されます。国営事業の導入
により、「ひと、もの、かね、情報」
が動き、村の明るい展望が開けます。

これからも、「多良間新時代を切
り拓く」という未来に向かって大き
く飛躍できるよう、時代の変化を的
確に捉えながら、未来に責任を果た
す村政運営を柱に、これまでの取り
組みを加速・発展させ「ゆかり村」
の実現に向け、全力で取り組んでま
いきますので、村民の皆様には、引
き続き、ご理解とご協力をお願い申
し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりま
して素晴らしい年となりますよう、
心から祈念申し上げます。新年の
ごあいさつといたします。

2019年 元旦



新年のごあいさつ

多良間村議会 議長

森山 実夫

Sanoo Moriyama

新年明けましておめでとうござ
います。

村民の皆様には、新たな希望と抱
負に満ちた輝かしい平成三十一年
の新年をお迎えのこととお慶び申
上げます。

また、村議会活動に対しまして
は、日頃から温かいご理解とご協力
を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、日本各
地で、大地震、豪雨、台風などの自
然災害が数多く発生した一年でし
た。

本村においては台風や干ばつ等
の被害も少なく豊作型となり、葉た
ばこは、生産販売額一億一千万の目
標を達成しました。

また、新多良間製糖工場も完成し、
新製糖工場で年内操業も開始され
今期製糖も豊作が期待されていま
す。観光関連施設の多良間村地域振
興拠点施設が八月に着工され三月

末完成に向け造成工事が進められ
ています。施設完成後は、特産品直
売店、お食事処等の施設ができ農産
物や食材、特産品の提供活用が大い
に期待できます。議会といたしまし
ては、行政と一体となって農業、観
光振興に取り組んでまいります。

今後とも村議会に対しましてご
支援・ご提言をお願い申し上げます、平
成三十一年の亥年が村民の皆様にと
りまして、実り多い年であります
よう祈念申し上げます、新年のごあいさ
つといたします。

平成三十一年元旦





新年のあいさつ

多良間村教育委員会 教育長

池城 三千雄

Michio Ikeshiro

あけましておめでとうございます。村民の皆様には、輝かしい

2019年の新春を迎えられ、心身ともに益々ご健勝にてご活躍のことと、お喜び申し上げます。旧年中は、教育行政に対しご協力、ご支援をいただき心から感謝申し上げます。

2017年（平成29年度）から12月第1土曜日を「教育の日」と定めております。新たな行事を増やすのではなく、公民館まつり、現在、コミュニティまつりが開催されている内容を、充実させて取り組むことにいたしました。

「教育の日」を定めて二年目にあたり、国指定の重要無形民俗文化財「八月踊り」の継承発展に、ご尽力いただいた、4個人と善行児童生徒、小学生1人、中学生1人を表彰いたしました。

子ども達をとりまく教育環境の

整備事業について紹介します。（平成30年度）

1 省エネ推進事業

教育関連施設「多良間幼稚園、小学校、中学校、水泳プール、学校給食共同調理場、民俗学習館」の省エネ推進として、照明設備をLED照明に取り替え、電気需要の低減化を図ります。

2 多良間中学校グラウンド整備事業

グラウンドのトラックを全天候型に改修する事業で、今年度は排水工事を実施し、次年度以降「外周工事」「トラック工事」を進める予定です。児童生徒の競技力向上だけでなく、村民の健康増進に寄与する施設になると期待します。いずれの事業も「沖縄振興特別推進市町村交付金」（一括交付金事業）を活用した事業です。

教育委員会としましては、子ども

達の健全育成に努めて行くことを基本にしています。そのためには「学校・家庭・地域・行政」の連携が不可欠であります。「島の子ども達はみんなで守り育てる」「早寝・早起き・朝ご飯」、連携を密にして取り組んでいきたいと思っております。

2019年の亥年が、「十日越し夜雨、豊年満作」の一年になりますことと、皆様のますますのご健勝を祈念申し上げます。今後とも、子ども達の健全育成のため、ご指導、ご協力をお願いして新年のごあいさつといたします。

平成三十一年一月 亥年 新春



新製糖工場で操業開始



操業開始式で豊作と安全操業を祈願してさとうきびを投入する安村社長、伊良皆村長ら関係者

新しくなった製糖工場で、12月17日(月)、平成30年―31年期のさとうきび製糖操業が始まった。
初日は約179トンが搬入され、平均糖度は13・65度で基準糖度帯に達し、上々の滑り出しとなった。
原料搬入量は2万3400トン、操業日数は3月下旬までの100日間を予定している。
新工場ですべてとなる操業開始式並びに安全祈願では、操業期間中の安全を祈り、神酒や塩を供えたあと宮古製糖の安村社長や伊良皆村長、森山議長らが压榨機にさとうきびを投入し鏡開きを行った。



保育所クリスマス・おゆうぎ会



12月20日(木)、多良間保育所で「ステージで輝くほく・わたし」のスローガンのもとクリスマス・おゆうぎ会が行われた。
園児たちはこの日のために練習してきたおゆうぎやダンスなどを元気よく披露、会場には大勢の父母や家族が訪れ頑張る子や孫を温かく見守っていた。

自動車事故被害者救済制度について

国土交通省及び独立行政法人自動車事故対策機構では自動車事故被害者に対し、以下のような取組を行っております。

<国土交通省>

- 短期入院・短期入所協力事業
- 介護者なき後に備えるための情報提供

問い合わせ先:

国土交通省自動車局保障制度参事官室
Tel: 03-5253-8111(内線: 41418)
URL: <http://www.mlit.go.jp/jidosha/anken/04relief/accident/aftereffect.html>

<自動車事故対策機構(NASVA)>

- 介護料の支給
 - 短期入院・短期入所費用助成
※対象: 介護料受給者
 - 介護相談・訪問支援 ※対象: 介護料受給者
 - 療護施設の設置・運営
 - 交通遺児等貸付制度
 - 介護者なき後に備えるための情報提供 など
- 問い合わせ先: 自動車事故対策機構沖縄支所
Tel: 098-916-4860
URL: <http://www.nasva.go.jp/sasaeru/index.html>

※介護者なき後に備えるための情報提供については、国土交通省及び自動車事故対策機構で対応しております。

<NASVA交通事故被害者ホットライン>

- 全国の交通事故被害者及びその家族等へNASVAの支援制度や相談先にお困りの場合には各種相談窓口を紹介しています。
- 電話: 0570-000738
(土・日・祝日・年末年始を除く 9:00~17:00)

多良間村成人式

平成31年新成人名簿

No	氏名	父母名
1	石垣 拓也	石垣 和弘
2	本村 健史	本村 健次
3	天久 春吾	天久 春昌
4	豊見城 玲	小禄 政人
5	外間 天太	外間 太一
6	知念 勇吾	知念 三雄
7	亀川 朋生	亀川 一成
8	羽地 真映	羽地 直樹
9	比嘉 飛翔	比嘉 清作
10	伊良皆 海音	伊良皆 旭
11	嘉手苺 奈々瀬	嘉手苺 光芳
12	糸数 萌	糸数 皖
13	佐和田 すぎ乃	佐和田 一八
14	津嘉山 真凜	津嘉山 一
15	嘉味田 理恵	嘉味田 新一
16	垣花 美羽	羽地 紀子
17	仲間 詩織	仲間 弘勝
18	外間 瀬南	外間 正人
19	親里 梨依南	親里 寿栄
20	伊良皆 理絵	伊良皆 博
21	塩川 玲奈	塩川 英幸
22	與那覇 流音	與那覇 正人
23	名嘉真 康太	名嘉真 康夫
24	仲村渠 雄大	外間 豊
25	大見謝 舞	大見謝 正勝

1月4日(金)、平成31年多良間村成人式がコミュニティ施設で行われた。二十歳の節目と新たな人生の門出を迎えた男性12人、女性13人、25人の若者を祝い、激励した。

新成人を代表して比嘉飛翔さんが「自然豊かな多良間島で生まれ、保育所から中学校まで共に競い合った仲間と新成人の誓いを共にし、故郷を自分たちの誇りとして心に刻みたい。一人の社会人として自覚と責任を持って社会に貢献していきたい」とあいさつした。



沖縄県立具志川職業能力開発校2019年度職業訓練生募集

課程	科名	募集人数	期間
普通課程	自動車整備科	10名	2年
	電気システム科	10名	
	メディア・アート科	11名	
	情報システム科	10名	
短期課程	オフィスビジネス科	13名	6ヶ月
	オフィスビジネス科(身体障がい者対象)	7名	
	総合実務科(知的障がい者対象)	15名	1年
	造園ガーデニング科	20名	

※募集期間：2019年2月1日(金)～28日(木)
(但し、土日祝日は除く)

※授業料無料(但しテキスト代、検定代、教材などは自己負担)

※オフィスビジネス科は身体障がい者と健常者を同一教室・カリキュラムで訓練を実施します

※詳しくは、お問い合わせ下さい

お問い合わせ先

具志川職業能力開発校：098-973-6680

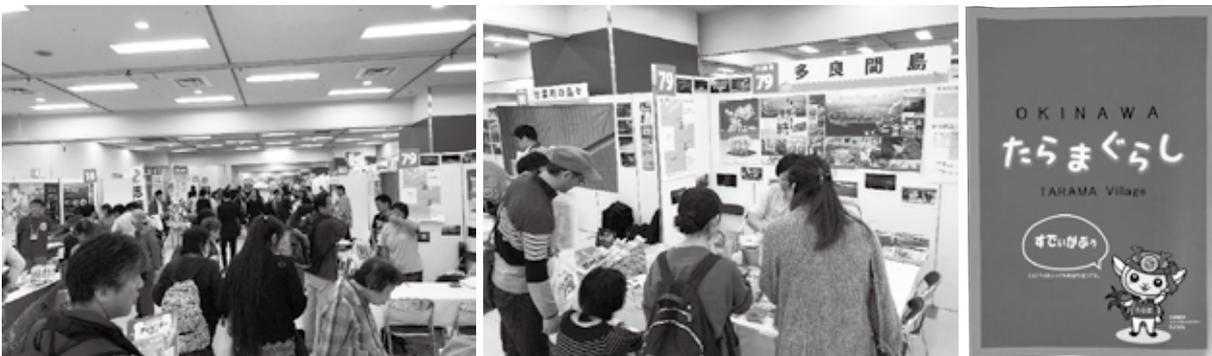
アイランダー2018に出展してきました！

こんにちは！多良間村地域おこし協力隊の大戸です。

11月の17、18日(土、日)池袋サンシャインシティ文化会館で、全国の島々が集まる祭典「アイランダー2018」が開催され、多良間村もブース出展してきました。

特産品の販売、ブースの装飾、パンフレットの配布等を通して来場者の皆様に多良間の紹介をしてきました。想像していた以上に多良間に来たことがある人、今後、島に行ってみたいという人がブースに立ち寄り、多良間の魅力を分かっている方が多くて、うれしくなりました。

また今回は、来場者の方に多良間の暮らしが少しでも伝わるように、「たらまぐらし」というパンフレットを作成しました。ご覧になりたい方がいましたら大戸までお声掛けください。



国民年金保険料を納めることが難しい方へ 知ってほしい4つの制度

国民年金第1号の被保険者は、毎月の保険料を納めていただく必要があります。しかしながら、所得がないなど、保険料を納めることが難しい場合もあります。

そのような場合は、未納のままにせず、「国民年金保険料免除・納付猶予制度」の手続きを行ってください。

制度1 経済的に保険料が納められない方に「申請免除」制度

収入の減少や失業等により保険料を納めることが経済的に難しいとき、保険料の全額または一部が免除されます。

制度2 50歳未満の方に「納付猶予」制度

50歳未満の方(学生以外)で働いていないなどの理由で生活に余裕がない場合、保険料が猶予されます。

制度3 20歳以上の学生さんに「学生納付特例」制度

学生で前年所得が基準以下の場合、在学期間中の保険料が猶予されます。

制度4 障害基礎年金や生活保護を受けている方に「法定免除」制度

障害基礎年金、障害厚生(共済)年金の1級・2級の受給権者、生活保護法による生活扶助を受けている方、ハンセン病療養所、国立保養所などに入院している方は保険料が免除されます。

詳しくは、平良年金事務所、または役場年金担当までお問い合わせください。

「日本で最も美しい村」連合 九州スロック町村紹介⑤ **【高森町】**

No. _____
Date _____

たかもりまち
高森町 ～野の花と風薫る郷～

人口：約6,500人 高森町役場 0967-62-1111

熊本県の最東端に位置し宮崎県、大分県に隣接する阿蘇山に抱かれた自然豊かな町「高森町」。基幹産業は、観光と農林業です。熊本地震で被災し、目下全線復旧を目指す南阿蘇鉄道トロッコ列車、高森湧水トンネル公園、高森殿の杉な

どが観光の目玉です。特産品は、あか牛、ヒゴムラサキ(ナス)や高原野菜のほか、挿し木育成法が特徴的な阿蘇南郷檜(アソナンゴウヒ)などがあります。



あか牛

地域資源1 美しい草原景観

阿蘇カルデラの中にある高森町は、古来より人の手を介し創り、守られてきた草原を有しています。この草原風景は、2017年「重要文化的景観」に選定されました。国の宝として未来に残すため、今後も保全していく必要があります。

地域資源2 豊かな環境を生み出す水の源

高森町は潤沢な阿蘇の伏流水にも恵まれ、生活・農業用水のほか酒や味噌・醤油などの地域産業を支えています。旧国鉄高森線の延伸工事中、出水が発生し工事は中断。以来、毎分30トン以上もの水が湧き出し続けている高森湧水トンネル公園は、季節の装飾が多くの観光客を魅了します。



阿蘇山

地域資源3

神秘的時間が流れる神社群と肥後三馬鹿騒ぎ「風鎮祭」

神々が宿ると言われている高森町にはいくつかの歴史的名所が存在します。「くさかべよし草部吉見神社」「かみしきみくまのいす上色見熊野座神社」「どん高森殿の杉」など荘厳な雰囲気にもまれ、パワースポットとして近年人気を博しています。

また、風を鎮め五穀豊穡を祈る、270年もの歴史を持つ夏の風物詩「風鎮祭」も高森町を語るなかでは、はずせない行事です。



高森湧水トンネル公園

危険物取扱者試験

- ☆試験日：平成31年2月17日(日)
- ☆試験の種類：甲種、乙種(第1類～第6類)、丙種
- ☆願書受付期間：平成31年1月10日(木)～1月18日(金)
- ☆願書配布先：各消防本部予防課、県宮古事務所総務課、県八重山事務所総務課、(一財)消防試験研究センター 沖縄県支部

※電子申請できます。
ホームページをご覧ください!!
ホームページ：http://www.syoubou-shiken.or.jp

【お問合せ先】
(一財)消防試験研究センター沖縄支部
TEL.098-941-5201



観光振興課 地域おこし協力隊 友野からの お知らせ

あけましておめでとうございます。今年も「広報たらま」もしくは、別の形になるかもしれませんが、皆様に活動報告や知り得た情報などをお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願い致します。

下記の内容は、広報たらま12月号に掲載されるはずだった内容です。

「関係人口」という言葉をご存じでしょうか？

【定住した「定住人口」でもない、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる者のことを言います。地方圏は、人口減少、高齢化により地域の担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手になることが期待されています。】総務省HPより

総務省では、「関係人口」として地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供する取り組む事業も開始しています。

また、沖縄県のある離島では、移住促進を積極的に行っていますが、同時に「移住をするのは難しいが、この島が好きなので応援したい」という「関係人口」に着目し、新たなファンの創出に向けて動いています。

多良間村でも、先日みなさんのご協力のもとに開催した「離島生活体験ツアー（村民運動会へ参加）」も、新たな多良間ファンを増やすことが目的ではありませんでしたが、参加して下さった方から「多良間が大好きになりました。何か島の為に協力できることがあれば・・・」という、思いもなかった嬉しいお声もいただいています。現在、多良間村では、住居や雇用のことを考えるとターンUターンなど、今すぐに増やしていける状態ではありません。ならばまず、こういった「関係人口」を増やす取り組みも多良間村では必要なのでは？と感じます。

そして増やすだけでなく、地域の活性に繋げていけるような事を考えていかななくてはいけないとも思います。

「関係づくり」の糸口にするための1つというわけではないですが、「ふるさとワーキングホリデー」という制度があります。総務省が2017年から開始した取り組みです。

「都市部の若者が一定期間、離島・過疎地域に滞在し、地元農家や企業等の業務に従事し収入を得ながら、地域との関わりを深める取り組み（地域との交流の場の提供など）を通じて地域での暮らしを体感する」というものです。

沖縄県でも30年度10月の補正事業としてこの制度の実施が開始されています。

30年度は、名護市、うるま市、国頭村、竹富町で、実施予定です。

次年度も移住・定住促進事業の1つに「ふるさとワーキングホリデー」の実施が予定されています。

滞在期間は、原則30日間、必要に応じて15日～30日間

賃金は、受入企業（農家など）が支払いますが、・募集、広報、説明会の開催・マッチング（受入企業⇄希望者）・滞在費（上限1人4千円/1日）・地域住民との交流や学びの場の提供に係わる支援など、沖縄県の事業としてフォローしてもらえます。

単なる労働の受入と捉えるのではなく、受け皿作り、よそ者になれる、なにより参加者が訪れた地を好きになり、地元に戻ってもその地を応援したいという気持ちでなんらかの形で関係する「関係人口」を増やす、更に進めばそこから移住へと繋がることもあるかもしれません。

うるま市では今年度、菊農家さんが「ふるさとワーキングホリデー」の受入を行うそうです。

多良間でも受入が出来るものなのか、実際に受け入れるとなるとどういった課題をクリアにしないといけないのかなど、まずは色々と情報収集を行い、集めた情報などは皆様にお伝えできればと思います。

移住した「定住人口」も必要ですが、観光振興課の地域おこし協力隊として、観光できたことのある人「交流人口」や上記のような「関係人口」を増やす取り組みもおこなっていききたいと思います。

村長のたうけ一むぬ中む。(ひとりごと)

今年、亥年だ。(多良間ではピ、イ
どうい)十二支で十二番目の最後だ。
十二支のはじまりについてはよく聞
かされた。

神様がある年の暮れ、動物たち
を集めて言った。「来年の元旦にあ
いさつにきた順に、一番から十二
番までを大将とする」。うわさを聞
いた猫はネズミにたずねた。「元旦
に神様のところに行けばいいのだ
な」。ネズミは言った「ちがう二日
の朝だ」。大みそかにネズミはウシ
の家に行った。ウシは歩きが遅いた
め、早く出発した。ネズミはウシの
背中に飛び乗った。元旦の朝日が昇
り、神様が門を開いた。ウシが門を
くぐろうとすると、背中からネズミ
が「ピョンッ」と飛び降りた。ネズミ
が一番、ウシは二番になった。トラ
はうわさを聞き千里の道をかけぬけ
て三番目に門をくぐった。トリが朝
の来たことを鳴いて告げると、ほか
の動物たちは、ふとんから飛び起き
て急いで出発した。そして、ウサギ、
タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、

トリ、イヌ、の順で門をくぐった。
途中でサルとイヌが大げんかをし、
トリが間に入りなんとかおさまり、
順番は後の方になった。イノシシは、
門を通り過ぎ、急いでもどり十二番
目に門をくぐった。次の日の朝、猫
が行くと、神様は言った。「呼んだ
のは、昨日だ、寝ぼけていないで顔
でも洗ってこい」。同じく入れなかつ
たイタチは、「しらせが来なかった」
と文句ばかり言っていた。神様は、
それでは、月の最初の日をお前の日
にしよう。イタチの上に月のツをつ
けて「ツイタチ」でどうだ。それから
十二頭の順番と、なぜか「ついたち」
が決まった。

沖繩には、木々の由来についての
話がある。
昔(ンケーン)の話。木々どうし良
い場所をめぐり争っていた。神様は
見かねて、木々を呼びつけ住みかを
決めた。最初に来たのはフクギだつ
た。「お前には良い場所をあげる。
お前は人間の屋敷の周りに住み、防
風と防火、日かげになれ」と命じた。

次に来たのはマツだ。「お前は村を
美しく囲んで病魔や悪霊から守れ、
その代わりお前には台風にも負けな
い幹と枝、葉っぱをあげる」(新池あ
たりの包護林にはマツの巨木が茂つ
ていた)次に来たのはソテツだ。「お
前は畑の周辺、荒れ地に住み大きな
幹で人の役にたて」。次に来たのは
アダンだ。「お前は海岸、砂地に根
を張って台風から島を守れ」。その
後來た順にタケ、クバ、と次々と住
む場所と役割を決めた。とても遅れ
て来たのはガジマルとアコーだ。「も
う地面は残っていない。お前たちは
石でも抱いておれ」それでガジマル
とアコーは、今でも石を抱いている。

2019年は「乙亥」(つちのとい)の
年だ。亥の年は過去を振り返ると
災害の多い年となっている。大正
12年(1923年)関東大震災、死
者・行方不明者十万余人余り。昭
和58年(1983年)日本海中部地
震、マグニチュード7.7、10メー
トルを超える大津波発生。平成7年
(1995年)阪神淡路大震災、マグ
ニチュード7.2都市型基盤をほぼ
壊滅状態に陥れた。一方、経済は回
復基調への転換年だった。60年前の
昭和34年(1959年)戦後高度成長
時代の好景気の一つである「岩戸景
気」が本格化、庶民の暮らしは一変
した。昭和58年(1983年)個人所
得が伸びサラリーマンの実収入が三
年ぶりに増加に転じた。

「亥」の年には枯れた植物が倒れ、
土に戻って、翌年の芽吹きを迎える
準備の年だ。何かの終わりを告げ、
新しい息吹を感じる年となる。新し
い始まりに向けて、しっかりと準備
をすることが大切だ。本村も国営事
業のスタートに向けたのはじまりの年
としたい。



森本

「白バス・白タク」は違法であり危険です！

白バス・白タクを利用した場合、警察から職務質問を受ける場合があります！



白バス・白タクの事故でけがをした場合、補償が受けられない恐れがあります！

白バス・白タクは安全面に不安



	バス・タクシー	白バス・白タク
運転手	プロドライバー	プロでないドライバー
運転前のアルコールチェック	あり	なし
事故時の責任	会社が対応	運転手任せ
保険義務づけ	搭乗者保険 8,000万円以上	なし

安全・安心なご旅行は、国の許可を受けたバス・タクシーをご利用ください！！

那覇クルーズ促進連絡協議会

宮古島クルーズ客船誘致・受入環境整備連絡協議会

石垣市クルーズ客船受入連絡協議会

内閣府沖縄総合事務局運輸部

沖縄県警察本部

12月

世帯数と人口 <small>(平成30年12月末現在)</small>			
総世帯数		523 (1)	
総人口		1,172 (-2)	
男 628		女 544	
区別	人口	世帯数	
土原	67 (0)	30 (0)	
天津川	87 (0)	41 (0)	
川良	101 (0)	46 (0)	
宮間	73 (0)	30 (0)	
嶺間	143 (1)	66 (1)	
大木	203 (-1)	99 (0)	
道木	280 (-2)	120 (0)	
大吉	214 (0)	88 (0)	
水納	4 (0)	3 (0)	
出生	0	死亡	1
転入	0	転出	1

()内は前月比

緊急ダイヤル

火災・救急 ワンクッションコール	119番
警察官派出所 (79-2010)	110番
急病人 多良間診療所	79-2101
歯科診療所 医師	79-2162
停電 沖縄電力多良間営業所	79-2147
断水 役場住民福祉課	79-2623
家畜疾病 役場産業経済課	79-2503
ガス専用JA多良間	090-6859-2355

救急に関すること
(12月)

- ◆時間外救急受付 10件
 - ◆救急車出動 2件
 - ◆ヘリ搬送 1件
- 火災・救急ワンクッションコール：
119
- ※緊急の場合以外診療時間内での受診を心がけよう

おくやみ

字塩川1256番地 安里 積千代 (69歳) 平成30年12月9日

年賀はがきを贈呈

多良間郵便局は11月29日、多良間村内の事業所12社の協賛を得て、村内の小・中学生児童生徒全員に年賀はがき1,125枚を贈呈した。

外間郵便局長は、「文字を書くことや年賀状を書く楽しさを学んでほしい」と呼びかけた。

贈呈式では、協賛事業所を代表して株式会社塊心の知念吉信社長が「最近では手紙を書く機会が少なくなった。手紙を書く習慣を身につけ、たくさん感動を覚えてほしい」とあいさつ。

年賀状を受け取った小学生代表の佐和田稀央さんは「最近ではラインやSNSを使うことが多くなり、手紙を書く機会が少なくなった。たくさんの方に年賀状を出したい」中学生代表の宇良愛菜さんは「はがきが届くとうれしさは2倍になり感動もある、絶対に出したい」とそれぞれ感謝した。

協賛事業所・団体は次の通り。

- 塊心
- 共伸電気
- 海秀
- 安里自動車整備工場
- 中央スーパ
- 郷土マリンサービスJAWS II
- 糸数興業
- 西筋産業
- 郷土開発
- 波平自動車整備工場
- カラオケいこい
- お食事処BIG、ペンションBIG



年賀はがきを贈呈された児童生徒たちと贈呈した郵便局と協賛事業所の代表ら

編集後記

*新年明けましておめでとうござい
ます。

本年も村民の皆様にとりまして幸多き
年となりますよう心よりお祈り申し上げ
ます。

*今年が平成最後の年になるが、平成の
始まり、平成元年は何があったのか調べ
てみた。

海外ではベルリンの壁崩壊、天安門事
件と歴史に残る大きなニュースがあり、
国内では消費税法施行、リクルート事件
で竹下首相辞任、千代の富士国民栄誉賞、
流行語大賞に「オバタリアン」等があっ
た。また、この年には、美空ひばり、手
塚治虫、松下幸之助など昭和を代表する
各界の大物が亡くなっている。

次の元号が何となるか注目されている
が、どんな元号でも戦争のない、自然災
害のない、平静な時代であってほしい。

なかまさとや
仲間智也